

## 針尾送信所

旧日本海軍の鎮守府設置以降、人口が急増し、混雑と混乱を極めた佐世保。針尾で「佐世保無線電信所(針尾送信所)の建設工事が始まったのは、そつした激動の最中、一九一八(大正七)年のことでした。日本海軍が当時の最新技術を駆使し、巨額の費用を投じて進めた工事は四年後の二二年に完成。大きな三本の無線塔と通信局舎が姿を現しました。

これまで針尾送信所に関する資料は終戦時にすべて焼却処分され、現存しないと言われてきました。しかし、二〇〇六(平成一八年)、送信所の設計者である海軍技師・吉田直氏の孫、吉田直紀氏(清水建設株式会社OB)が建設当時の写真を保管されていることが分かり、それらは同氏の意向により、清水建設株式会社を通じて本市教育委員会に提供されました。今回はその貴重な写真を紹介しながら、当時の様子を振り返りたいと思います。

## 無線塔の内部

高さ12~13m間隔で4方向に窓が設けられ、晴れた日には日光が差し込みます。内部にリフトや階段は無く、頂上まで登るには、壁面に設けられたはしごを使わなければなりません。写真下側の鉄骨は、空中線(アンテナ)につながっていたおもりのガイドレール。その上には井桁に組まれた鉄骨が見えます。

名称	佐世保無線電信所(針尾送信所)
所在地	針尾中町750番地
建設	臨時海軍建築部
設計者	吉田直(よしだ・のぶる)
起工	1918(大正7)年
竣工	1922(大正11)年
敷地	86,318㎡
構成	耐爆構造半地下式2階建て局舎 1,850㎡ 無線塔 1、2、3号塔とも136m(各塔間300m) ※塔の基部直径12.12m、塔頂部直径3.05m
構造	鉄筋コンクリート(局舎は表面石張り)
総工費	155万円(現在の金額で約250億円)